

〔翻 訳〕

『スペクテイター』 (43)

——第400号から第409号——

門 田 俊 夫

第400号 1712年6月9日（月曜日）

【スティール】

ヘビは草むらに潜む。(ウェルギリウス)¹⁾

私は節度とその利益を守るべきだと思います。これから逸脱してしまいますと、常に罪につながるからです。まさに気まぐれの目的というものは、そうでなければ望ましい場合でも、不安や不本意というものが完全に消滅するのだと知らせるほどに大胆な立ち居振る舞いによってくじかれてしまいます。先年の才人についてつぎのような一節があります。

セドレーには、抗し難い魅力でもってこの上なく貞淑な心を
この上なく解放的な気持ちにさせてしまう常に穏やかな雰囲気
が備わっている。衰えつつある美德と欲望の間に葛藤を引き起こし、
情熱を燃え立たせますので、打ち負かされた哀れな娘は夜は夢に
うなされ、昼間はため息と涙に明け暮れることになる²⁾。

この常に穏やかな雰囲気というものは、愛想のよさ、礼儀正しい振舞い、そして節度ある女性のマナーにうまく順応させることから生まれます。粗野、無遠慮な言葉遣い、そして厚かましい出しゃばりといったものは、教養のある人々に不快感を与え、逸脱した人は、敬意を払われるに十分な美点を持った人たち全員から忌まわしい人物と見なされてしまいます。ドナベラとの対話で、アントニーが屋形船に乗ったクレオパトラについて語る場面が見事に整理されているのは、この点を考慮した結果です。

彼女の乗ったガレー船は銀色のキュドニス川を下った。
索具の絹や吹流しは、黄金色に翻った。
紫色の帆は、穏やかな風を孕んだ。

1) ウェルギリウス『エクロガエ（詩選）』3.93

2) スティールはこれを第91号でも引用した。6月1日、ポープへの手紙でもこれを引用した。サー・チャールズ・セドレー（1639-1701）は放蕩と機知で知られた宮廷詩人。

彼女の長椅子の周りには、まるで、海の精ネレイスのように、
乙女たちが陣取った。長椅子には、もうひとり、
海から生まれたヴィーナスが横たわった。
彼女は片方の手に頬をもたせかけて横たわった。
そして、思いつめたような甘美な表情を浮かべた。
まるで彼女を見つめている人たちの心を確認しているかのように、
そして、周りには目が行かないかのようなようだった。
キューピッドのような少年たちが、立ったまま
色鮮やかな羽の扇で彼女の顔に向けて風を送り込んでいた。
彼女が微笑むと、矢のような光が輝くようだった。
男たちのもの欲しげな目は決して飽きることはなく、
彼女に釘付けになった。
銀色に光るオールはリズムを守る。オールの奏でる音を
聞いていると、目にも、また、思いにも、新たな喜びが加わった³⁾。

ここで提示されるすべてのことに想像力が喚起されます。でも、みだらな、つまり、引き立てられる美しい女性が、みだらだと思わせるものは何一つありません。同様の、あるいはもっと繊細で慎重な奥ゆかしさといったものは、フィリップス氏の牧歌のつぎの一節で伺えます。

そなたたち風よ、静かに吹いておくれ。
そなたたち水よ、穏やかに流れておくれ。
そなたたち木よ、彼女をかくまっておくれ。
そなたたち花よ、彼女の周りで咲いておくれ。
そなたたち牧夫よ、お願いだから、黙って通り過ぎておくれ。
あの谷間で、わが愛しい人が眠っているから⁴⁾。

熱情に優しさあるいは賞賛の念が伴うと、欲望は中和されます。みだらな言葉にはどこか獣的なものがあり、人間性を汚し、私たちを野原に放たれた獣の状態に追いやってしまいます。そもそもこの種の会話をどうしたらコントロールできるのでしょうか。上述のいわゆる常に穏やかな雰囲気を持った人を警戒することです。この才能に精通している人は、自分たちの思いに、とても口当たりのよい衣装、心の隠れた目的とはかけ離れた衣装を着せることが出来ます。そのため、無防備の想像力は少しずつ忍び寄る愛情に感動し、抵抗出来なくなります。女性の幸福を気遣い、取り巻く雰囲気に戸惑うのではないかと危惧し

3) ドライデン『愛ゆえに』3幕1場、162-6、168-79行。

4) アンブローズ・フィリップス『牧歌』(1709) 4.61-64

ているように見せること、そして、親切な表情でというよりも、口に出して言い、愛を直接告白するのではなく、ちょっとした運まかせで感動的にまた一步踏み出して「ああ」とか「おお」といった感嘆詞を口にすることが、巧みな求婚者のやる手口なのです。これは目的に添ったものであると誠実ですが、誤用されると忌まわしい作為となります。町の多くの若い女性が、この上ない不安に思い悩んでいるにもかかわらず、求婚者の当然の行為である口説きを一回もしない男性に心を奪われているのは確かなことです。私はこれまでしばしば、女性の読者への警告を発して、人柄を熟知していない限り、愛想のよい男性には注意するように言って来ました。女性は適当だと思ってもそれを隠すことができます。隠せば隠すほど、私がそうだと指摘すると腹を立てるかもしれません。だが、私に言わせると、男性を賞賛するとなると何らかの愛情が伴うのは当然です。このため、際立った評価あるいは注目を得ることが出来る人物は、かりに恋人として主張するのにさほどかけ離れていないにしても、友人あるいは訪問客として受け入れるのは危険です。男性の心が不誠実な意図を嫌悪していなければ、賞賛を思いやりに、思いやりを情熱へと高めていくことは容易であるかもしれません。おそらく、知人たちの目には両者には愛はなく、友情に過ぎないと映るかもしれません。だが、両者は牧歌の羊飼いの男女のように愛し合っているかもしれませんし、乙女と牧夫はまさにピュラデスとオレステスにほかならないかもしれません⁵⁾。

ルーシーがふくらむ胸を花で飾り、頬杖をし、
休んでいるふりをするとき、
私は逆上せんばかりの心を抑えることはできず、
羊も牧草地も目には入らない。

かつてデリアは柔らかな苔の上に横たわってまどろんだ。
美しい手足を半ばむき出しにし、風にさらして。
私は彼女の衣服をなで、気づかれないようにキスをした。
羊飼いたちよ、私がやりそこなったなら、とがめておくれ⁶⁾。

こういった好意やお互いの気持を思いやることが、いわゆる男女間の友情を育みます。以上の交際を認めることで、若い女性は夫に辿り着くのです。慎重に愛情も友情もない夫を見つけるには、連続して4、5人の男性に失望させられて初めて可能です。友人をすべて失った哀れな人はどうしたらよいのでしょうか。私の知る限り、ウェルフォード卿に胸が張り裂けんばかりの友情を感じている愛想のよいマリネットという人物がいます。そんな彼女がハーディ大佐に大変な親しみを覚え、ほかの女性が彼に近づくのが耐えられな

5) ピュラデスはオレステスの友で、クリュタイムネストラ殺害に手を貸した。

6) アンブローズ・フィリップス『牧歌』4.81-84, 65-68

くなりました。仲違いをした友人同士の間にかかる不幸は数多くあり、命取りとなります。両者の憤りは想像以上に辛らつなものになります。この場合、不幸にしてお互いに隠し事が何一つないはずですので、異性間の友人は両者の合意があるために往々にして致命的な結果を招くことになります。

出来る限り潔白にかつ平穩に暮らすように気をつけている私としては、可能な限り愛想のよい女性と同席しなようにしています。実を言いますと、私は我慢強い哲学者ですが、プラトニックラブ⁷⁾をあまり評価していません。そこで、女性の読者にこれに警告を発する必要があると考えました。なぜなら、私はとても心配していますが、最近無益なプラトン主義者がその哲学と矛盾するほど増えてきているからです。

第401号 1712年6月10日（火曜日）

【バジエル】

愛には、侮辱、嫉妬、口論、話合い、争い、再度の和解、
こういったあらゆる災いがある。（テレンティウス）¹⁾

本日は女性の寄稿者から受け取った何通かの奇妙な手紙を公表したいと思います。

観察者様

貴方は時々悲嘆に暮れる恋人たちの苦情を伝えることに満足していると認めていらっしゃるのです、女性の改心、同時に、この上なく手に負えない人々に対する貴方の尽力が好結果をもたらしていることのもっともらしい証拠となる確実な一例を提供することに貴方が賛意を示してくださるものと考えます。申し上げますが、私は貴方がしばしば「男たらし」²⁾と述べておられる類の女性の一人です。そこで、これまで長い間札つきの過ちを犯してきたことへの償いのために、また、傷つけた相手に許しを乞うために、この手紙を届けます。私がこの方法を取りましたのは、これで彼が示した仲直りの条件に対する返事となると考えたからです。そのことは私が彼を捨てた翌日の彼からの手紙を見ていただければ分ります。貴方にことの全容を分っていただくには、そのコピーをお送りするのが妥当と考えたわけです。

さらに申し上げておかなくてはなりませんが、私が彼を捨てるまでの1年半というもの、二人の関係はとても親密でした。その間はずっと、彼の希望を大切に、彼の情熱を満たしていました。その後どうなったかは貴方の推測に委ねますが、ある日彼が執拗に全面的な同意を求めてきたとき、私は彼にどうして私の愛が勝ち取れると考えておられるのか理

7) platonic love という言葉は、OED によると1636年が初出。platonic lover の意味での platonist という言葉は1756年。セントリヴァー夫人の喜劇 *The Platonic Lady* は1706年に出版されたが、「スペクテーター」発行中の1711-12には上演された形跡はない。

1) テレンティウス『宦官』59-61

2) 第187号参照。

解できないと告げたのです。彼は分別もあり、作法も正しい方です。人柄も見栄を張らなくても愛される資格があると思わせる方です。実は、私たちの資産は精密なばかりで測ってみますと、ぴったり釣り合いが取れているというわけではありません。このことが私が彼を捨てた本当の理由でした。私は自信たっぷりにつぎの処世訓を伝えました。私は常々、私に最高の継承譲与財産を提供できる人の情熱が最も激しいものだと言っているのです。それ以来、私は考えを変え、手紙を何通か出して考え方が変わったことを知らせようと思いました。だが、無慈悲な彼は、その手紙をことごとく拒否しました。そこで、彼に手紙を出す手段はなくなり、貴方の助けを借りるしか方法がなくなったのです。貴方のお力をお借りして、彼を呼び戻せるなら、貴方に恩返しをすることを約束します。サー・ロジャーと貴方ご自身に私の第一の後見人になっていただきたいものと切に願っています。

草々

アモレット

フィランダーよりアモレットへ
前略

昨日お尋ねの件にはとても驚き、いまだに何とお答えしてよいか途方に暮れています。どうやら私は貴女にはどうしてもよい人物ですので、少なくとも私の返事は退屈なものとなりますし、貴女を煩わせたくありません。私がしばしば耳にしています貴女がごくもったいとおっしゃっている事柄について、私がどのように考えているかについては、お返事はしませんので、どうぞお好きなようにお考え下さい。貴女のお気に入りの著者は「両者の境遇にさほど大きな不釣り合いがない場合、愛想のよい恋人の寛大で誠実な情熱は、最愛の人に降りかかる最大の祝福である。一度見落としてしまうと、おそらく二度と見つからないかもしれない」³⁾と述べています。

しかしながら、近々現在のアンテノールよりも愛されるようになることを、私は少しも諦めてはいません。なぜなら、私の資産が彼の資産を上回るようになればいつでも、貴女の情熱はそれに応じて高まると言っておられたのですから。

世間の人々は、私が恥ずべきことに移り気な女性を喜ばすために時間を浪費していると見ています。その時間があれば、私の評判と長所を使ってほかの人を追いかけることができますはずだというわけです。それゆえ、失礼をも省みずお知らせいたします。女性の耳には厳しく響くかもしれませんが、万一貴女の愛の発作が再発するようなことがあっても、世間の人々はすでに私に対する貴女の遇し方を知らされていますので、貴女が撤回する方法をうまく見つけられない限り、貴女は二度と私の顔を見ることはありません。

草々

フィランダー

3) この著者はステイール。

アモレットよりフィランダーへ
前略

よく考えて見ますと、貴方と私自身双方を傷つけることになった私の振舞いはとんでもないことですので、現在の私の行動は私たち女性が通常守る礼儀作法に反しているように見えますが、私は故意にあらゆるルールを破ることにします。そうすることで、私の後悔の念はある程度私の罪に釣り合いが取れると思います。請け合いますが、私は今貴方を取り戻したいと願っており、アンテノールの資産を軽蔑しています。この洒落者は昨日金メッキの馬車を仕立てて新しいお仕着せを着せた従僕を従えて私のところへやって来ましたが、会うのを拒絶しました。あんなことがあった後で、貴方にお会いするのは怖いのですが、混乱の最中に、貴方は愛し合っているものたちにしか真似の出来ないような愛情を私に認めるものと自惚れています。今月一杯は田舎のD夫人宅に滞在する予定です。でも、森も野原も庭も、フィランダーがいなくては不幸せな私には何一つ喜びを与えてくれません。

草々

アモレット

観察者様、何卒フィランダーへのこの手紙を出来るだけ早く公表してください。そして彼には彼のグロスターシャーの裕福な伯父さんの死については私はまったく知らないと知らせてあげてください。

第402号 1712年6月11日（水曜日）

【スティール】

観察者はそのことに身を任せる。（ホラティウス）¹⁾

私が受け取る境遇も身分も異なるさまざまな人からのお手紙をすべて公表すれば、それに触れるだけで、テーマについて考えなくても、人々の心を感動させるあらゆる情熱を奮い立たせることになります。こういった具体例として、二、三通お伝えしたいと思います。手紙の書き手は、償いを求めてどのような法的権力にも訴えることはできず、慰めを得るためというよりも、悲しみを発散させるために書いたように思えます。

観察者様

私は美貌も身分もある若い女性で、私を溺愛するある紳士と似合いの結婚をしました。ところが、私の夫は夫ととても親密なある貴族の不当な情熱の的となっているのです。この友情によって、彼はとても気楽に近づき、しばしば私抜きで楽しめます。もう一つの事情、つまり、不実な夫の友人が私を説き伏せようとして、非常に欲得ずくな私の母を味方に引き入れていることを貴方にお伝えするときには、私の心はこの上なく苦しく、非常に当惑します。疑うことを知らない夫から、私が友人に失礼な態度を見せるといってしばし

1) ホラティウス『詩の技法』181-2

ば叱られます。母と二人きりになると、母は必ず世間の分別のある人々の話をし、誰某さんはうしろめたいことをしているので、私にそうならないようにと助言をしてくれます。母は私が驚いているのを見ると笑い、自分は常に徳高くあろうとしています。私は自分たちの娘ではないとあてこすっているように思えます。この手紙を活字にさせていただくことで、私は母親の異様なしつこさと夫の友人の不実な振舞いから救われるかもしれません。私は美德を心から愛しており、潔白を守る決意です。この一件が明らかになって生じる致命的な結果を避けるために、私が思いつくことができる唯一の方法は、永遠に逃げ出してしまうことです。罵倒しようとする人に対する夫の命取りとなる憤り、さらに、両親を汚名にさらす恥辱を避けるためには、私は逃げ出さなくてはなりません。該当する者は自分たちの状況が分かります。美德は死に絶えています。貴紙に載ったこの手紙を読めば、彼らは恥辱を恐れてくれるものとの希望を私は持っています。貴方が傷ついた美德に対して思いやりをお持ちでしたら、どうかこの手紙を活字にさせていただくようお願いいたします。

シルヴィア

観察者殿

小生は素敵な女性と結婚していますが、彼女の知り合いの婦人に、いわゆる、恋をしてしまいました。だが、この婦人は彼女にふさわしいある紳士と結婚する予定なのです。実は小生は彼女の資産に強い期待をしまして、結婚ということでは小生の同意が必要となっています。この紳士の将来の幸福を考えますと、抑えることができない怒りと妬みが湧き上がり、理性や公正や一般的な正義に反して、小生はこれまで婚礼を一時停止させるために、卑しい策を弄してきました。自分自身に対しては、期待はしていません。なぜなら、エミリアは、彼女のことを小生はそう呼んでいるのですが、とても厳格な美德の持ち主ですから。彼女の恋人は、特に小生が友人になってもらいたいと思う紳士です。でも、不当この上ないことなのですが、妬みと嫉妬によって、小生は自らの幸福を台無しにしています。そして、これまで悪魔の苦しみと気持を込めて、二人の結婚を認めざるを得ないことを呪ってきました。腰を落ち着けて悪魔のような形相で現在の気持を語っていることが、後悔の始まりであつたらいいと願っています。とはいえ、現在の小生にとっては、二人の素晴らしい人物の幸福よりも破滅のほうを歓迎しているのです。観察者殿、どうかこの手に負えないいわれのない苦悩を紙面に公表してください。そして、ある程度小生と同じように取り付かれている人々を追いつくために全力を投入してください。

カンニバル

観察者様

私としましては、ある人に感謝の気持ち、またある人には憤りを表明するしかありません。私の事情は以下の通りです。私はここ5年間莫大な資産家の紳士から求愛されています。この方の資産は、女性としては想像もつかないほどのものです。貴方はきっと、友人たち全員からお似合いだと思われ、際立った存在となっているような生き方をしている人

たちを見てこられたに違いありません。私たち二人はしばらくの間こんな風に見られてきましたし、この3年間私は彼を心から愛しました。彼は資産にとっても気をつける方ですので、私は常々、彼が思うに私に不足しているのを補うために、その分を貯えようとして儉約した暮らしをしているものと思っていました。二、三ヶ月しなうちに、彼の馬車が様変わりしているのに気づきました。彼は一人でいる私を捉え、情熱を込めた言葉を浴びせかけて来ました。もやはこれ以上我慢できない、私の願いは抑えられない、などなどと。彼のことが分かっていますので、私はそういった場合、彼に単刀直入に言うことは出来ず、お好きなときに貴方のものにしてください、と答えたのです。ところが、先日の夜、彼は非常に率直かつ厚かましく、私に向って私のことは愛人としてしか考えていないと言ったのです。私はその告白にふさわしい返事をしました。すると、彼は従順さを申し込んだ言い方を繰り返すのみでした。彼への怒りが高まったとき、彼は、仲間を遠ざけて二人だけで過ごした無防備な時間は何の役にも立たなかったね、と言ったのです。私は彼から逃げ出して、隣の婦人の家へ行きました。ご主人が部屋にいましたが、私は長椅子に身を投げ出し、感極まって突然泣き出しました。私の友人は夫に部屋を出て行って欲しいと頼みましたが、これは尋常ではないので、私もこの苦悩を共有しよう、何はともあれ、妻は貴女の友だちなので、私に出来ることがあれば妻から指図があるかもしれない、と彼は言いました。ご主人は私のそばに座り、まるで兄のように話し掛けてきました。そこで私は苦悩の全容をお話しました。ご主人は私の受けた危害について非常に憤慨しました。そして、私を元気づけてくれました。私は裏切られることになる卑劣漢を愛していたのだと、私の弱みに付け込んで分別と人間性に訴えていたので、私が我慢していたのも無理はなかったのだと。隣家のお二人は私の慰安者であり、私は彼らと居ても、一人で居るときのように気兼ねすることはありません。すぐにでも、私の心の中では、軽蔑と憎しみが、卑劣漢に対する愛情の残滓は軽蔑と憎しみに取って代わるに違いありません。

ドリンダ

観察者殿

不幸にして、私は甥と姪の見分けがつかないうちに伯父になってしまいました。今では成長して、見分けがつくようになっていますが、彼らは私に対して当然の敬意を払わないのです。一人は馴れ馴れしいと言って私を非難します。二人目は私が伯父であることにほとんど納得していません。三人目は私を小さな伯父と呼び、四人目は伯父さんには一切義理がないと言います。このことが貴殿が勘案する価値があると考え、私たちの今後の仕返しについて何らかのルールを規定してもらえなければの話ですが、私には私の全愛情を勝ち取っています息子のある義理の弟が一人います。いわば、生まれながらにして老人である人物の振舞いについてルールを定めることは、貴殿の特別な才能を発揮することになると考えます。何卒よろしくお願い致します。

コルネリウス・ネボス

第403号 1712年6月12日(木曜日)

【アディソン】

人々のさまざまな習慣を誰が分かるか。(ホラティウス)¹⁾

この大都市を地区ごとに見た場合、さまざまな共同体がそれぞれの習慣、マナー、利害関係の点でお互いの特徴があることが分かります。生活様式という点では、宮廷の場合、国が違って、宮廷とシティーにおけるほどの大きな違いはありません。要するに、聖ジェイムズ宮廷の住民は、同じ法律に基づき、同じ言語を喋るのですが、チープサイドの住民とはまったく異なります。同様に、チープサイドの住民も、考え方あるいは交際の仕方といった点では、テンプルの住民やスミスフィールドの住民とは異なります。

このため、何らかの社会問題が持ち上がった場合には、私はいくつかの地区やロンドンおよびウェストミンスター教区での意見を聞くことにしています。利口な同胞の意見を知らするために一日中あちこち歩き回るわけです。こうすることで、私は週間死亡報告書が出回る地区の主だった政治家の顔はすべて分かります。そして、どのコーヒーハウスにもそれぞれお喋り屋さんのうるさ型の政治家がいますので、私は常に、その人の近くに陣取り、彼が現在の案件に対してどのように考えているか探ることにしています。最近この意図で歩き回ったのは、フランス王の死の噂が流れるほぼ3ヶ月前のことでした。この件は、ヨーロッパに新たな局面を生み出し、わが国のコーヒーハウスでは興味深い様々な憶測が生まれると見越しましたので、私はどうしてもこれに対するわが国の傑出した政治家の考えを知りたいと考えたわけです。

出来るだけ源泉の近くで始めるために、私はまずセント・ジェイムズ²⁾に向いました。通りに面した部屋では部屋中政治の話でざわめいていました。話に夢中になっていましたので、誰が入って来るかまったく無頓着でしたが、部屋の奥の方へ進んで行くにつれて、意見がだんだん研ぎ澄まされたものになりました。理論家の一団が意見の質を高めていたのです。彼らは奥まった部屋に陣取り、周りにはコーヒーポットの湯気が漂っていました。そこでは、15分も経たない内に、スペインの君主制が片付けられ、ブルボン家のことが組上に載せられているのを耳にしました。

その後、ジャイル³⁾に行きました。そこではフランス人紳士の一団が大王の生と死について話し合っていました。その中で、ホイッグを支持していた人たちが、大王は死亡して1週間くらいになるので、直ちに獄につながれている友人たちを釈放し、彼らを復職させたのだと明確に断言しました。だが、彼らの意見が一致しないのが分かりましたので、私はつぎのコーヒーハウスへと向いました。

ジェニー・マン⁴⁾に入っていくと、元気のよい若者が、私と同時に入った友人に向って

1) ホラティウス『詩の技法』142

2) セント・ジェイムズ・コーヒーハウスは第16号にも登場。

3) ジャイル・コーヒーハウスもセント・ジェイムズ・ストリートにあった。

4) ジェニー・マンはティルトヤード・コーヒーハウスのこと。ホワイトホール宴会場の北にあり、軍

帽子をひょいと持ち上げ⁵⁾、つぎのように声をかけました。やあジャック、やっと老いぼれが亡くなったね、急ぐのだ、今こそ絶好のチャンスだ、直ちにパリの城壁まで行くのだ、などなどと謎めいたことを言っていました。

チャリングクロスとコヴェントガーデンではほとんど違いはありませんでした。ウィルに入って行きますと⁶⁾、話はフランス王の死から始まって、ボワロー、ラシーヌ、コルネイユ、およびその他の詩人の死へ移って行きました⁷⁾。人々はこの機会を捉えてこういった詩人を悼んでいたのです。なぜなら、彼らが生きていたら、偉大でかつ学問のパトロンとして高名な王の死についてとても素晴らしい哀歌を残していたに違いないからです。

テンプルの近くにあるコーヒーハウスでは、二人の若い紳士がスペイン王家の後継者について激論していました⁸⁾。一人はアンジュー公の支持者で、もう一人は皇帝支持者だということです。二人ともスペイン王国の称号をイングランドの制定法で規制することには賛成していました。だが、二人の話は私の理解の及ばないものでしたので、私はセント・ポールへと向いました。そこでは、死亡した国王の支持者が少ないフランスの嘆かわしい状況について話をしているある学識者の言うことに耳を傾けました。

つぎに、私は道を右手に取って、フィッシュ・ストリートへと向いました⁹⁾。その地区の主要な政治家は、そのニュースを聞くと、(タバコを一服くゆらせ、しばらく思いを巡らしたのち)、もしフランス王が死んだのが確かなことであれば、今シーズンはサバが大量に入るだろう、わが国の漁業はここ10年そうだったが、これからは私掠船に悩まされることはないだろう、と言いました。その後で、彼はこの偉大なる王の死がイワシの漁にも影響を与えるのだ言うのでした。その他彼の発言は聞いている人たち全員に大きな喜びを与えました。

それから、私は狭い路地の行き止まりにある小さなコーヒーハウスに入りました。そこでは、ある宣誓拒否者が近所の秘密礼拝集会所に多額の援助をしているレース職人と熱心に話し込んでいました。議論の内容は亡くなったフランス王はカエサルかそれともネロかということでした。両者の論争はとても熱を帯びていました。二人は論争しながら私の方にしばしば目を向けますので、私に意見を求めてくるのではないかと危惧して、カウンターにお金を置き、急いでチープサイドへと向いました。

しばらくいろいろな看板を見つめ、私の意図に合ったコーヒーハウスを探しました。そ

人の溜り場だった。第109号、第283号参照。

5) 帽子の気取った被り方については、第38号参照。

6) ウィル・コーヒーハウスは第1号に登場。

7) ボワローは3月13日に死亡し、3月17日の『デイリー・クーラント』でその死が報じられた。ラシーヌは1699年、コルネイユは1684年に死亡した。

8) ここに登場する2人とは、ルイ14世の孫アンジュー伯フィリップと「皇帝陛下」。この2人は、1700年カルロス2世の死を受けて、後継争いをした。ユトレヒト条約により、アンジュー伯がフェリッペ5世として即位した。一方のレオポルド皇帝の息子カルロスは支持者たちからスペイン王カルロス3世として知られ、1711年兄ヨーゼフの死により、神聖ローマ帝国カルロス6世となった。

9) フィッシュ・ストリートは、ブレッド・ストリートと旧取引所の間を東西に走っていた。

のコーヒーハウスで最初に気づいたのは、フランス王の死を大変悲しんでいる人物がいることでした。彼の話聞いていて、その人の悲しみの原因は、王が亡くなったことにではなく、その知らせを聞く3日ほど前に、バンク株を売り払ったことにあることが分かりました。そのとき、このコーヒーハウスの賢人であり、崇拜者の一団を従えている服飾小間物商¹⁰⁾が、自分は1週間も前に、フランス王が亡くなるのは確実だと言ったはずだ、と何人かの証人を呼び寄せました。さらに彼は、このところフランスから届いた情報を考えて見ると、それ以外はあり得ない、と付け加えました。彼がこういったことを並べ立て、周りの人たちに大変な権威を振るいながら喋っていたときに、ギャラウェイ¹¹⁾から一人の紳士がやって来ました。この紳士はたった今フランスから手紙が数通届き、王は健康だとのことだと語り、朝の郵便を追いかけて出て行きました。そこで、服飾小間物商はわきの木製の帽子掛けに掛けていた帽子をそっと手にして、とても困惑した表情で自分の店に帰って行きました。この情報を最後に私は歩き回るのは止めましたが、非常に満足の行くものでした。こういったとても大きな出来事についていろいろな意見を聞き、あらゆる人がごく自然にそれぞれ自身の利害関係の観点から問題を捉えていることが分かって大きな喜びを見出したのです¹²⁾。

第404号 1712年6月13日(金曜日)

私たち誰もがあらゆることが出来るわけではない。(ウエルギリウス)¹⁾

自然は何一つ無駄なことはしません²⁾。宇宙の創造者はあらゆるものに、特定の用途と目的を定めています。一定の身の振り方、活動範囲といったものを定めているわけです。そして、そこから少しでも逸れると、定められた目的に応じるには適さなくなります。同様に、社会の配置もそうであり、市民の経済も、自然と同様に鎖状になっています。いずれの場合も、輪がひとつはずれてしまいますと、全体に何らかの混乱をきたしてしまいます。かなり明白なことと思えますが、私たちが見かける不合理とか嘲笑の的になることの大半は、人々が適さないこと、つまり、自然が定めていないことに厚かましくも秀でているふりをするに由来しています。

すべての人は、自分自身および他人にとって役立つ資質をひとつないしそれ以上有しています。自然は必ずその資質を指摘し、幼児が自然の保護下に置かれている間は、自然が道に連れ出し、その後の人生の案内役を買って出てくれます。その道を歩めば、ほとんど

10) この人物は『タトラー』に登場する室内装飾業者を連想させる。

11) ギャラウェイ・コーヒーハウスは王立取引所近くにあり、裕福な商人が出入りしたという。第138号参照。

12) 『率直な男』第13号(1712年7月5日)に同じものが掲載された。『率直な男』はウィリアム・ウィッチャリー(1640?-1716)の1676年の作品。

1) ウェルギリウス『エクロガエ(詩選)』8.63

2) このアリストテレスの考えについては、第210号参照。

失敗することはありません。自然は約束を履行します。なぜなら、自然は出来ないことを約束することがないように、約束したことは必ず果たすからです。ところが、不幸なことに、精通しているかもしれないことを馬鹿にし、適していないことをひけらかす人がいます。こういった人々は才能が向いていることはすでに所有していると思いがち、力の及ばないことに秀でようとするのです。こうして、人は貪欲な人が平穏さと安らぎを台無しにするのと同じように、天性の才能を台無しにしてしまいます。人には持っていないことを所有したいという不合理な性癖がありますので、持っていることには満足感を覚えられないわけです。

クレマンテスには良識の持ち主であり、素晴らしい記憶力も周到な集中力も備わっていました。早い話が、彼はどんな職業についても異彩を放つことが出来たのです。だが、彼はそれでは満足せず、どういうわけかある立派な紳士の個性に愛着を覚えます。彼は解剖の授業に出たり、法廷に出向いたり、教父たちの研究をしたりしないで、この一点に集中しました。彼は優れた弁護士とか神学者とか医師になる代わりに、芝居を読み、ダンスをし、客間で過ごします。クレマンテスは紛れもない伊達男で、彼を知る人々からすると、才能を誤用した情けない見本となったのです。伊達男といったものは、すべてこのてらいのなせるわざの結果です。自然はすべてのドラマの中でそういった役割を引き出しませんでした。自然は時々愚か者を作りますが、伊達男は常に人間自身が作ったのです³⁾。才能を自然が定めたものと違う点に向けたのです。自然は道から逸れることに大きな憤りを覚え、必ずしっぺ返しをします。人間の役割に対する自然の傾向に逆らうことは、野菜の生産で道から逸れるのと同じ結果をもたらします。技術と温床を準備することで、私たちはおそらく不承不承の作物とか季節外れのサラダを手に入れることが可能でしょうが、それらはこの上なく弱々しく、味がなく、まずいのです。ちょうどそれはウァレリウスの詩が無味乾燥なのと同じことなのです。ウァレリウスは誰にも好かれる性格で、品が良く、学識があり、考え方もまともで、間違ったことも言いませんでした。ウァレリウスは秀でていない点は何一つないと思われていました。一つの点を除いてすべてその通りでした。その一つの点というのは、ウァレリウスには詩歌の才能がないということでした。でも、彼は詩人になる決意をしたのです。彼は詩を書き、人々に自分は思われているような人物ではないのだと納得させるのに大変な苦勞をします。

もし人間が喜んで自然に接ぎ木をし、自然の営為を手伝うとしたら、どんな強力な効果を期待できるでしょうか。秀でているのが、キケロは雄弁術、ウェルギリウスは詩歌、カエサルは戦争というだけではなくるに違いありません。自然の上に構築することは、岩の上に土台作りをすることです。あらゆるものがいわば道に整然と並びます。キケロは才能を雄弁術に振り向け、ウェルギリウスは詩女神たちの列に並びます。彼らは自然の助言に敬虔に従い、報われました。もしウェルギリウスが法廷に出ていたなら、謙虚で率直な美德によって、彼はきつととても公平無私な人物として名を揚げていたに違いありません。

3) ポープ『批評論』26-27

キケロの雄弁術の性癖は、詩歌では無益だと思われたに違いありません。自然は自分だけに任された場合、私たちを最善の道に導いてくれます。強制とか拘束的なことは何一つしません。私たちが自然のあてがう道を歩むことに満足しない場合は、常に最大の受難者となってしまいます。

自然が生産を考えるとどこでも、常にそれにふさわしい種を用意します。種は植物の存在と成長にとって欠かせないのと同様に、道徳のないし知的形成にとっても種はどうしても欠かすことはできません。どのような運命でまたどのような愚行によって、自然を無視して詩を書こうとすることが、庭師が種なしでキズイセンとかチューリップを育てようとするのと同じくらい不合理だと教えられているのか、私には分かりません。

男女双方にとって、資質というものは良いものでも悪いものでも必ず影響があるものです。持っていない資質を見せかけることによって、女性は少なくとも男性よりも多く苦しめられたに違いないと思われます。この悪い影響が出た例としては、シーリアとアイラスという二人の正反対の性格の持ち主におけるほど顕著なものはありません。シーリアは、自然が与えたあり余る美しさだけでなく、あらゆる魅力を備えた女性です。だが、機知はなく、大変な悪声の持ち主です。一方、アイラスは無器量で粗野ですが、機知と良識を備えています。シーリアが口を開かなければ、彼女を目にする人は彼女に憧れます。アイラスが口を開けば、彼女の声を目にする人は彼女に見とれます。だが、シーリアはひっきりなしに喋りますが、アイラスは寡黙で静かにしています。そのため、シーリアが美しく、アイラスが機知に富んでいるとは信じ難いのです。二人はそれぞれ自らの長所を軽視し、相手の特性を手に入れたいと考えます。つまり、アイラスはシーリアの美貌を、シーリアはアイラスの機知を持っていると思われようとします。

見せかかるとの大きな不幸は、良い資質を失うだけでなく、悪い資質が身につけてしまうことです。定められたことをするには不適任になるだけでなく、適していないことに身を入れることになり、一方で頭角を現さず、他方で馬鹿げたことをすることになります。もしセマンサが天性の肌の色に満足していたら、オリーブ色の美人⁴⁾として賛美されていたかもしれませんが、彼女は白と赤を気取りましたので、今では非常にうまく塗りたくっている人物としてしか認められていません。要するに、人々が、キケロがどんな学問に進んだら良いか相談したときに下されたデルポイの神託である「自然に従え」という有名な指示に従うことができれば⁵⁾、誰もがそれぞれの分野で、キケロのように卓越し、近々に、女性たちからは厚かましさと見せかけが、男性たちからは伊達男と不実な人たちが追放されるに違いありません。私自身は、自然に対するこの馬鹿げた嫌悪感は最大の愚行であるだけでなく、最も恥すべき罪の一つとしか考えること出来ません。なぜなら、それは神の摂理に対する直接的な異議申し立てであり、(キケロの表現を借りれば)巨人たちの罪、そうです、天に対する事実上の反乱に等しいからです⁶⁾。

4) 肌がオリーブ色の美女については、第396号参照。

5) プルタルコス『キケロ伝』5.1

6) キケロ『老年について』2.5

第405号 1712年6月14日（土曜日）

【アディソン】

賛美歌でもって、神の愉快的宴会は終わる。

賛歌は太陽が沈むまで続いた。

ギリシア人たちは元気を取り戻し、感謝の調べが続く。

アポロンはその歌に耳を傾け、それを是とする。(ホメロス)¹⁾

本日のオペラのちらしを見て、現在活躍中で、おそらくこれまで登場した中で、劇音楽界で最も偉大な歌手がいなくなりそうだと知って、私は大変残念に思っています。読者の皆さんにお伝えする必要はないと思いますが、シニョール・ニコリーニのことを言っているのです²⁾。本格的なイタリア音楽を見せてくれたこと、さらには最近、わが国のオペラに大きな賞賛を与えてくれたことに、わが町はこの優れた芸術家にとっても感謝しています。この作曲家は、偉大な外国の巨匠たちが示した素晴らしいお手本ならって作られたわが国のオペラに見られる言葉の美しさを認めようとしたのです³⁾。

わが国の教会音楽の質の向上のために、最近舞台音楽に向けられたのと同じことが行われたらいいのに、と私は心から願っています。わが国の作曲家には、それを行う一つの大きな動機があります。英語は素晴らしい言葉であり、同時に素晴らしく変化に富んだ言葉だというのは確かなところだからです。聖歌や賛美歌にふさわしい傑出した著述ではどのような感情も見事に描写されます。

わがヨーロッパの言語表現は、東洋の言語と比較してみると、ある種の冷たさおよび無頓着さといったものを備えています。非常に幸運なことに、たまたま英語にはある種の優美さと美しさを伴ったヘブライの言語が溶け込んでいます。英語は聖書の詩的な箇所由来するヘブライ文化の注入によって、数多くの優雅さを享受し、向上しているのです。ヘブライの言語は、英語の表現に力とエネルギーを付与し、英語に暖かみと活気を与えてくれます。そして、英語で遭遇するいかなる言い回しよりも情熱的に私たちの考えを伝えてくれるのです。この種の言い回しは非常に哀愁に満ちたものですので、しばしば気持ちに火がつき、心を燃え上がらせるのです⁴⁾。英語本来の非常に優雅で礼儀正しい表現形式の祈りは、とても冷たく活気がないように見えます。その場合、聖書から引用された厳かな言い回しでは気持は高揚しません。古代の人何人かが、もし神々が人間と話ができたら、神々はきっとプラトンのように話すだろう、と言ったことがあります⁵⁾。だが、私が思いますに、人間が創造主と話すときには、当然のことですが、聖書におけるほど適切な話し方は

1) ホメロス『イーリアス』1.472-4

2) ニコリーニについては、第5号、第18号参照。

3) ウィリアム・ダンコームによれば、この作品は『カリプスとテレマコス』（作詞ヒューズ、作曲ガリアード）とのこと。

4) 『ルカによる福音書』第24章第32節。

5) プルタルコス『キケロ伝』24.3

できません。

もし誰かが聖書で出会う詩の美しさを評価し、ヘブライの言語がいかに無理なく英語に混入し一体化しているかを吟味するとしたら、その人には、詩編を精読した後に、ホラティウスかピンダロスの逐語訳を読ませてあげなさい。私がここで述べていることが彼に十二分に理解してもらえるほど、この両者は想像力は貧困で、表現が不合理で混乱していることに気づくに違いありません。

そこで、私たちはそれ自体とても美しく、音楽の旋律にとってもとてもふさわしい言葉の宝庫を持っていますので、顕著な人たちが理性に基盤を据えた、そして楽しみを引き起こすのと同じくらいに美德をも高める類の音楽に、どうしてほとんど注意を払わないのか、また、奨励しないのか、私は不思議に思わざるを得ません。ありふれた作品によって掻き立てられる情熱は、一般に、真剣に回想するのが恥られるほど愚かで馬鹿げたことから生じます。しかし、聖歌や賛美歌によって覚醒される恐怖や愛や悲しみは、心を爽快にさせますし、誰の目にも理性的で賞賛に値する動機から生じます。喜びと義務が手に手を取って進み、満足感が大きければそれだけ信仰心も強くなります。

選民と呼ばれた人たちの間では、音楽は宗教的な作為でした。「シオンの歌」は、東洋の宮廷で高く評価されたと信じる根拠があるのですが、神を崇め賛美する聖歌にはかなりませんでした。この神の国の最も偉大な征服者は、昔のギリシアの抒情詩にならって、頌歌の歌詞を作っただけでなく、大抵の場合、自ら曲をつけたのです。その後で、彼の作品は、幕屋に捧げられましたが、人々の信仰の対象であると同時に慰めとなりました。

ドラマの最初の起源は、コロス（合唱隊）だけで構成される宗教的なお祈りでした。コロスは神への賛歌にはかなりませんでした。贅沢さと官能性が純真さと宗教心にまさるにつれて、このお祈りの形式は、悲劇へと退化しました。しかしながら、悲劇にはコロスが残り、最初の務めを思い出させたのです。そして、コロスは無実の人たちのために神にとりなし、罪人への復讐を嘆願するために、悪いことには烙印を押し、良いことは推奨しました。

ホメロスとヘシオドスは、このわざが用いられた様子についてほのめかしています。彼らは詩女神たちがユピテルを取り囲み、神の御座についての賛美歌を歌うのだと描写しています⁶⁾。古代の著者の数多くの文章から、宗教的なお祈りで利用された声楽や器楽だけでなく、彼らお気に入りの気晴らしにはそれぞれの神に対する歌や賛美歌が満ち満ちていることをお示しできるものと思います。もし私たちがこの種の娯楽を頻繁に持てたなら、情熱は少なからず浄化され高揚させられ、思考は好ましくなり、誰もが官能的で無分別な喜びに抑えられてはいないのだと感じるような神への衝動を育むことになるに違いありません。

音楽は、このように利用されると、聞く者の心に気高い心得を惹起させ、崇高な考えで一杯にしてくれます。音楽は、信仰心を強化し、賞賛の念を恍惚状態にまで高めてくれま

6) 『イーリアス』1.601-4

す。音楽はまた、お祈りを長引かせ、ありふれたお祈りで口にする一時的な言葉よりも長持ちのする永続的な感動を生み出してくれます。

第406号 1712年6月16日（月曜日）

【スティール】

この学問（文学）は、青年の心を研ぎ、老年を喜ばせ、
順境を飾り、逆境には避難所と慰めを提供し、
家庭にあっては娯楽となり、外にあっては荷物とならず、
夜を過ごすにも、旅行のおりにも、バカンスにも伴となる。
(キケロ)¹⁾

つぎの二通の手紙には、私生活の喜びと満足感に対する素敵なイメージが伺えます。最初の手紙は、ある紳士がとても尊敬する友人に宛てたもので、隠遁で手にする満足感を伝えたものです²⁾。もう一通は、ラップランドの恋人が書いた頌詩がきっかけとなって私宛に届いたものです。この寄稿者は親切にもシュフェールの別の歌をとても素敵に翻訳してくれています。老若問わず、それぞれの孤独観にふさわしいもの見つけていただくように、この二通を一緒に公表します。

拝啓

とても心優しいお手紙有難うございました。それによりますと、貴方は生活の場を町から田舎へと移し、賢人が楽しみかつその資格を得る状態を混ぜ合わせていらっしゃる事が分かります。考えて見ますに、哲学者も道德家もほとんどの人が、孤独ないし社会生活をひたすら称える際に極端に走り過ぎています。孤独の場合は、一般に休みを取り過ぎますと無用になり、社会生活の場合は、あわただし過ぎますとつぶされてしまいます。静止している水は、腐り、何の役にも立たなくなりますが、激しく流れる水は、水路で害をもたらし、やがて呑み込まれてなくなってしまいます。貴方のように、どんな状態でも有益なことができる人々は、穏やかな流れのように、羊の群れや羊飼いのいる人里離れた谷間を静かに歩むだけでなく、人の行き交う町を訪れ、人々に彩を添え、同時に人々の役に立つことをすべきです。ところで、孤独に対しては別の考え方をしていると思える人たち、つまり、姿を見せるより、隠れたがる人たちがいます。私自身に関しては、私はセネカの言う「昼間でもぼんやり見えるように、暗いところで縮こまっている人がいる」³⁾といった人物の一人です。絵画と同じように、たっぷり光を浴びるよりも隅っこの方が似合っている人たちがいます。私が信じるには、孤独に対する自然な適性が備わっている人は水の

1) キケロ「アルキアース弁護」7.16 この箇所の日本語訳は、小川正廣・谷栄一郎・山沢孝至訳『キケロ弁論集』（岩波文庫、2005年）を借用。

2) この手紙はポーブからのもの。

3) セネカ『倫理書簡集』1.3.6

ようなもので、無理やり泉に押し込まれ、随分気高い印象を与え、泉に水をなみなみとたたえ、大いに目立つかもしれませんが、結局のところ、大地の自然な道の方がなめらかに、均一に、豊かに、流れるものなのです。こういったことを考えると、私はカウリーの言う無名の友である平静さしか持ち合わせていないことに満足しています⁴⁾。だが、友として詩才をも持ち合わせている人は誰でも、怠惰にしていますと必ず落ち着かなくなってしまう。そこで、お分かりのように、私は自惚れて自分の生き方を評価しているのです。プルタルコスはこのこと言っています：「人生では、テーブルでのゲームの場合と同様に、誰もが最高の運に恵まれればいいと考えていますが、もし運に恵まれない場合は、出来るだけうまく立ち回り、うまく切り抜けるのだ」と⁵⁾。

敬具

観察者殿

町の人々は、貴殿が最近活字になさった、自然がラップランドの人に描かせることになった頌歌の素晴らしい実写にとっても満足しましたので、聡明な翻訳家がシュフェールの別の歌も翻訳なさっていただけるものと期待していました。だが、貴殿がそうなさらないので、はるかにお粗末な小生の手で取立てこれを翻訳してお送りすることに致しました。

北国の恋人たちは、愛人の元を訪れるために沼の多い荒野を進む間、歌で気晴らしをする習わしとなっています。これは恋する男がトナカイに向かって言ったことです。トナカイはその国では馬の不足を補うためにいます。道すがら恋する男に連続して起こる状況は、貴殿が考えられると思いますが、当然のことながら取り混ぜになっています。恋する男には、愛する人が留守にしているのではとの不安、陰鬱な道中、これらを繰り返さなければとの決意があります。なぜなら、これらを経験しない限り、望みの相手に辿り着けないからです。最速で彼を運んでいることにさえ述べる不満および予期していないのに水浴びをしている愛する人の姿を見たときの嬉しい驚きも原作では見事に描写されています。かりに、模倣作では、こういった素敵な田舎の自然に対するイメージがすべて失われるにしても、貴殿ご自身には時間もその気もなさそうですので、おそらく貴殿は長文の手紙の代わりをこれで埋め合わせるほうが適切だと思われるに違いありません。小生は貴殿にその時間を取っていただきたいと思います。なぜなら、自分のやることに愛着を持つのは当然ですが、どう見ても、小生には貴殿の一行にとって代わるようなものはありませんので⁷⁾。

I

トナカイよ急いでおくれ。そして、この荒涼とした原野を進む恋の道行を早めておくれ。

4) 「無名について」に掲載されている詩から。

5) プルタルコス「心の平静さについて」『倫理論集』467 A-B

6) 第366号参照。

7) 第366号参照。

トナカイよ急いでおくれ。まだまだ、のろすぎる。
性急な愛は稲妻のような速度を求めているのだから。

II

周囲にははるか先までトウシンソウの生えた荒野が広がっている。
間もなく太陽が快活な輝きをなくして、
暗がりの中を疲れて沼地を進むことになる。
退屈な道をまぎらすには歌しかない。

III

楽しいことが何一つないどこまでも続くじめじめとした荒野が、
確実に、花咲く草地の華麗さにまさっている。
この荒野の中を、私は憧れの彼女を目指して駆けて行く。
そなたたち花咲く草地よ、むなしい壮麗さよ、ご機嫌よう。

IV

私は愛する人の一瞬一瞬に縛られている。
私の胸は性急な激情でひどい苦しみを覚えている。
トナカイよ、飛んで行くのだ。風より速く。
そなたののろい足を私の激情で速めてあげよう。

V

心地よい労苦はすぐに報われるだろう。
驚いて茫然としているそなたに、わが愛しの人を見せてあげる。
素敵な乙女のひとつひとつを称えておくれ。
飾らない魅力を、輝きを、明るい姿を。

VI

ほら見てご覧！ 彼女があそこで優雅に泳いでいる、
覇気満々の波を優しくかきわけながら。
押し寄せる波はうっとりして、彼女の手足にからみつく。
いつ、いつ、いつになったら、私はあの気安さを手に出来るのか。

VII

そなたたち嫉妬深い流れよ、流れが速すぎるのだ。
恋人の燃えるような視線から彼女を隠しても無駄だ。
いくら触れても透けて見えるようになるだけだ。
うっとりするほど美しい浮かれ騒ぎはすべて明らかになる。

第407号 1712年6月17日（火曜日）

【アディソン】

いかなる魅力も彼の雄弁に光彩を添えない。（オウィディウス）¹⁾

わが国の国民性について語る外国人著者の大半は、どんな悪習もそのせいになっているのですが、一般にイギリス人が生来謙虚だという点をあげます²⁾。わが国の弁士が他国の弁士に比べて身振りつまり動作がほとんどないとされているのも、おそらく、わが国のこの美点のせいなのです。牧師たちも説教壇で静かに立っていますし、実に素晴らしい説教をするにも指一本動かしません³⁾。法廷や公共の議論の場でも同じことが言えます。ギリシアやローマの弁士たちの間ではとても賛美されるのですが、私たちの言葉は、声を振り絞ったり、体を動かしたり、手を振り回したりせずに内部からよどみなく出て来ます。私たちは生死について平然と語れますし、大切なことを喋る場合にも平静を保つことができます。熱意はとても素晴らしい比喩の形で溢れ出しますが、手足を動かすには至りません。私は、イタリアのことを知っている人々が、偏狭なイギリス人はイタリア絵画の美を味わうことはできない、なぜなら、表現されているポーズはしばしばイギリスでは風変わりなものだから、と言っているのを聞いたことがあります。説教壇に立っているイタリア人を見たことのない人は、聖パウロがアテネで説教しているラファエロの絵に見られる気高い身振りをどのように理解したらよいのか分からないでしょう⁴⁾。この絵では、不信心者の賢人たちを相手に、両手を上げて熱弁をふるっている聖パウロの姿が描かれているのです。

適切な身振りとか声を張り上げるといったことは、代表演説者からあまり注目されないのは確かです。身振りとか声の大小は発言内容に対する一種の注釈であり、優柔不断な聴衆には、最も強硬な主張よりも効果的です。聴衆を覚醒させますし、発言内容に注目させます。同時に、演説者の熱意を示し、熱烈に訴えているのだと思わせます。激しい身振りや絶叫は、当然、無知な人々の心を揺さぶり、一種の宗教的な戦慄を与えます。女性が感動的な牧師を目にすると、たとえ説教が聞えないところにおいても、涙を流し身を震わせる様子を見かけることがよくあります。一方、イングランドでは、大声を出したりゆがんだ熱意が示されていたら、興奮し忘我の境地になっていると思われる真剣で凝った話にも寝込んでしまっている姿をごく頻繁に見かけます。

もし馬鹿げた話が、声と体にそういった情動が伴っている場合に、人々の心に大きな影響を与えたとしたら、英語で活字になっている多くの立派な説教がそれにふさわしい熱意と気品溢れる声と身振りを伴って伝えられるとしたら、どんな事態になるのでしょうか。

偉大なラテンの弁士が演説をするときのこの「激しいアクション」でひどく健康を損なったと伝えられています⁵⁾。同様に、ギリシアの弁士はこの点で有名になりましたので、この弁士をアテネから追放した彼のライバルの一人は、追放の原因となった演説の原稿を読み直し、彼の友人たちがその演説を称えているのが分かったとき、読んだだけでもそれ

1) オウィディウス『変身物語』13.127

2) おそらく外国人の目から見ると、個人主義 Individualism はイギリス人の主だった特性と映るのだろう。

3) 『タトラー』第66号、70号にも似たような記述がある。

4) ハンプトン・コートにある下絵のひとつ。第226号参照。

5) キケロ「ブルータス」91.313

ほど感動するなら、実際に彼が嵐のように激しく喋るのを聞いていたなら、どれほど脅えていたことかと言わずにはいられませんでした⁶⁾。

この二人の偉人と比べると、わが国の法廷の弁士はとても冷たく活気がないように映ります。活気なく平然と顔を上げ、腰まで達した長い髪をなでているだけなのです。実を言いますと、わが国の演説者の身振りほど滑稽なものはほかにはありません。ある者は両手をポケットに入れ、ポケットを突き破らんばかりに手を動かします。またある者は、何も書かれていない紙切れを熱心に見ています。多くの聡明な雄弁家が、大演説の間ずっと、帽子を両手で持って、いろいろな形にし、ある時には帽子の縁を、ある時にはボタンを調べているのを見かけるかもしれません。耳の聞えない人なら、演説者がことによるとわが国の運命について喋っているときでも、ビーバー帽（シルクハット）を値切っているのだと思うに違いありません⁷⁾。私が若く、ウェストミンスター・ホールによく出掛けていた頃、申し立てをするときはいつも荷造り用の紐を1本手にし、喋っている間終始その紐を親指とかほかの指に巻きつけている弁護士がいたのを覚えています。当時のひょうきん者たちはその紐のことを「弁論の紐」と呼んでいました。なぜなら、この弁護士は、紐がないと一言も発することができなかったからです。彼の顧客の一人が、賢明というよりも愉快な人物でしたが、ある日彼が申し立てをしている最中に、その紐をこっそり盗んだのです。もっとも、冗談を言ったために訴訟に負けましたので、紐を盗まずそのままにしておいた方がよかったです。

私はこれまで自分は無口だと認めてきました。それゆえ、雄弁についてルールを定めるには不適切な人間と思われるかもしれません。しかし、身振りは一切しないか、それとも、少なくともわが国民の才能に適したと思える優雅で表現力のあるものだけを活用すべきだという意見に皆さんが賛同していただけるものと信じています。

第408号 1712年6月18日（水曜日）

好ましい精神状態とは、厚かましくなりすぎないこと、
同時に、卑屈になりすぎないことです。（キケロ）¹⁾

観察者殿

私はテーマだけでなく論じ方の双方の点から、貴殿の思索をいつも大いに楽しみにしています。私は、常々、人間性は理性にとって最も有益な対象と考えてきました。これを喜ばしくかつ楽しいものにするためには、機知を最大限に利用することが大切だと考えています。哲学の他の分野だと、おそらく賢明にはなりますが、機知はその目的に適うだけでなく、人間を向上させてくれます。託宣がソクラテスを最も賢明だと言ったのはこのためです。なぜなら、ソクラテスは賢明にも人間性を彼の思考の対象として選択したからです。

6) このライバルはアイスキネス（389?-314? B.C.）のこと。アイスキネスはアテネの雄弁家。

7) 第323号参照。

1) キケロ「義務について」1.34.124

これを探究することはほかのすべての学問を超えます。なぜなら、真の人間性を備え、善悪の判断をする方が、惑星の距離を定め、回転の回数を算定することより重要だからです。人間性を深く観察することから生じる一つの好結果は、これまで全く不可解だと思っていたことに驚かなくなることです。なぜなら、原因なくして生じることは何もないように、人間性および情念の歩む道を考えると、その発端から終りまであらゆる行為の足跡を辿ることが可能になるからです。カティリーナやティベリウスの行為については、一方が非情な嫉妬に駆り立てられ、もう一方が激しい野心に動かされたのだと知ると、もはやそれに感嘆することはありません²⁾。というのは、人の行為は光と熱の関係のように、自然に情念に従うからです。また、ほかの結果にも必ず原因はあります。理性は情念を調整するときには用いられますが、情念はいつまでも行動原理として残るに違いありません。

人の行為で非常に明白な奇妙かつ不合理な変種を見ていると、明らかに理性から直接生じない行為があることが分かります。澄んだ泉は、荒れ狂う水を放出することはありません。洪水は必ず情念から生ずるに違いありません。情念と心との関係は、風と船の関係と同じで、風がないと船が動きませんが、風はしばしば船を壊しかねません³⁾。穏やかな順風であれば港に辿り着きますが、その逆なら波間に転覆してしまいます。同様に、心は情念に支えられたり危険にさらされたりします。その場合、理性が水先案内人の代わりにしなくてはなりませんし、理性は自分では望んでいなくても必ず責任を果たします。情念はこれに従う口実として受け入れられることはありません。情念は屈服するものとして作られており、情念が支配的になり苦しむ場合には、魂の自由を売り渡すことになります。

自然は様々な存在をいわば鎖状につないでいますが、人間は天使と獣の中間に置かれているように思えます⁴⁾。それゆえ、人間は不思議な縁で獣性と心性の特性を双方備えています。このため、絶えず、情念の争いを引き起こします。気質が天使あるいは獣に傾くことで、善あるいは悪、美德あるいは悪徳に支配されることになります。愛、慈悲、気立てのよさが支配的になりますと、天使のようになります。一方、憎しみ、残虐性、妬みが支配的になりますと、獣のようになります。古代の何人かの人たちが、現世において天使あるいは獣になる程度によって、死後そのいずれかに転生すると考えたのはそのためです。暴君、守銭奴、傲慢な人、悪意に満ちた人、および意地悪な人がいずれかの獣に変わるのだと想像するのは不快なことではありません⁵⁾。

こういった原型があるために、あらゆる人々にはあらゆる情念が宿っていますが、必ずしもそのすべてがすべての人に現れるとは限りません。気質、教育、国の慣行などの原因によって、情念の力は高められたり弱められたりしますが、種子は残っています。そして、その種子はほんのささやかな刺激があれば発芽しようと待ち構えているのです。私はある善良で敬虔な人物の話聞いたことがあります。山羊の乳で育てられたこの人は、自らの

2) サルスティウス『カティリーナ戦記』11.1

3) 第224号でも同じ表現を使っている。

4) A. O. ラウジョイ『大いなる存在の輪』(ケンブリッジ, 1936) 参照。

5) 第211号, 第343号参照。

行為には細心の注意を払って、人前ではとても謙虚でしたが、しばしば秘密の時間を持ち、そこではいろいろ悪ふざけをしたのです。厳格この上ない哲学者たちの隠遁生活について考えて見るチャンスがあれば、きっとそこでは彼らが巧みに隠していた情念がひっきりなしに顔を覗かせていることに気づくに違いありません。どの国も絶えず隣国をうらやんでいる、だから、緊急事態に備えて準備しておかなくてはならない⁶⁾、とマキャベリが言っているのを記憶しています。同様に、理性は絶えず情念から守られていなくてはならず、理性の安全を脅かす可能性のある試みを実行させないようにしなくてはなりません。とはいえ、さげすみ、その結果、無防備になってしまうほど力を弱めないように注意しなくてはなりません。

悟性自体は実行に移すには緩慢で不精なものですので、穏やかな情念の力を借りて始動させる必要があります。これがないと、悟性はよどみ腐ってしまいます。なぜなら、動物精気の循環が身体健康にとって必要なように、心の健康にとっては、情念が必要となるからです。動物精気は身体に生氣、力、活力を与えます。心もまた情念の助けがなければ役目を果たすことは出来ません。私たちには存在と共にこういった情念の活動が与えられています。情念は私たちと生死を共にする小さな妖精なのです。情念は、ある者にとっては穏やかでゆったりし優しく、またある者にとっては強情で手に負えないものですが、理性の制御および分別の指図に従わないほど強力ではありません。

一般に、理性と情念はバランスよく保たれていると思われます。この上なく非凡な才能の持ち主には一般にとっても強い情動があり、その反対に、理解力の弱い人には一般に弱い情念しかありません。駿馬の激しさは御者の手に負えないほど強いものであってはいけません。手に負えそうにない情念を持っている若者は、いずれ著名になるのだという望みは希薄になります。もちろん、若さ特有の激情は治まりますし、もしそれが欠陥だとすればの話ですが、日々改めていかなくてはならない欠陥です。しかし、若いときに激情がないと、老年になって情熱を発揮できないのはほぼ確かなところですが。それゆえ、情念を規制しようと考えるときには、完全に消してしまわないように細心の注意を払う必要があります。完全に消してしまうと、魂の光を消すことになります。なぜなら、情念を失くしてしまいますと、急いで失くしてしまいますと、人間は等しく目が見えなくなってしまうからです⁷⁾。わが国の大半の学校に見られる異常な厳しさには、致命的な影響があります。厳しさは心の弾力を砕いてしまい、ほぼ確実に才能を向上させるというよりむしろ台無しにしてしまいます。また、情念を完全に押さえ込むべきだというのは大きな間違いであることも確かです。なぜなら、ちょっとした型破りなものはしばしば大きな仕事をやる時にはつきものなので、これは持って生まれたものだけでなく、時には育むべきものなのです。優れた天才は誰でも、美德と欠陥を併せ持っています。これは光の中で燃え立つとげを持った灌木に似ています。

6) マキャベリ『君主論』第14章。

7) アントワヌ・ル＝グラン『情念を欠いた人間』(1675)。

情念は行動原理となっていますので、私たちはその活力を維持しながらしかも厳しく制御できるように努めなくてはなりません。情念に言うことを聞かせようとするときには、情念が卑屈になり、考えられる目的を達成するには不適切にならないように、情念を奴隷としてではなく自由の身の家来として取り締まらなくてはなりません。私自身はどうかと言いますと、正直言って、あらゆる情念から完全に中立を保つことを主張している哲学者たちの一派は評価することが出来ません。なぜなら、心の平静を獲得するため、また、情念は悪影響を及ぼす可能性があるからという理由で、行動原理であるまさにその情念を根絶するために、人間性について触れるのは大きな矛盾に思えるからです。

T.B.Z⁸⁾

第409号 1712年6月19日(木曜日)

【アディソン】

それぞれのテーマを機知で飾り立てる。(ルクレティウス)¹⁾

グラシアンは「鋭敏な好み」を洗練された人物における最高のたしなみだとさかんに推奨しています²⁾。この言葉は談話中にさかんに登場しますので、若干の説明をし、私たちがそれを所有しているか、また、教養人たちの間でよく話題に上る著述に対する「鋭敏な好み」を身につけるにはどうしたらよいか、といったことが分かるルールを定めたいと思います。

ほとんどの言語は、著述における隠された欠点および素晴らしい点を見分ける能力を表現するために、この隠喩を用います。本紙のテーマである知的な「好み」とあらゆる風味に対する味覚の喜びを与える感覚的な「好み」とに大きく符合する点がなかったなら、この隠喩はあらゆる言語でこれほど一般的にはなっていなかったのは確かだと思います。結果的に、このありふれた呼称で特徴づけられる感覚においても、知的能力においても、同じような洗練度があることが分かります。

私は完璧な「好み」を所有していた人物を知っています。この人物は10種類の紅茶を飲んだ後で、お茶の色を見ないで、自分が飲んだ種類を見分けました。それだけでなく、2種類を同じ割合で混ぜても見分けることができました。それどころか、3種類を混ぜてもその3種類を見分けるのでした。同様に、著述に対する「鋭敏な好み」を所有している人は、著者の長所と短所を見分けるだけでなく、ほかの著者とは異なるその著者独自の考え方、表現方法を見つけ出し、思想や言語を外国からの注入しているとか、誰某から借用しているとか、を見分けます。

このように、著述に対する「鋭敏な好み」が一般に何を意味するか説明し、著述で用い

8) 本号の考え方はポーブの作品にしばしば登場する。ニコルスによると、署名のZはポーブと考えられるとのこと。

1) ルクレティウス『本性について』1.934

2) 第293号参照。

られる隠喩の特性を明らかにして見ますと、「鋭敏な好み」とは「著者の長所は喜びを持って、欠点は嫌悪感を持って見分ける魂の能力」と定義できるものと考えます。もしある人がこの能力を所有しているかどうか分かれば、私はその人に幾多の時代と国の試練に耐えてきた名高い古典とか同時代の洗練された人たちから認められている現代の作品を読ませたいと思います。そういった著作を読んだときに、大きな喜びがなかったり、そういった著者の素晴らしい文章を読んだときに、冷淡さと無関心しか覚えなかったような場合には、その人は、(悪趣味の読み手にはよくあることです)著者に賞賛に値するような完成の域に達するものが欠けているからではなく、自分自身に見分ける能力がないからなのだと結論を下すべきです。

つぎに、自分が際立って特徴的な点、言ってみれば、著者の具体的な長所を味わっているかどうか、語り方の点でリウィウスを、登場人物の内面的な行動原理を汲み取っている点でサルスティウスを、一連の記録物を生み出した安全と利害という外面的な動機を持つ点でタキトゥスを、それぞれ気に入っているのかどうか、という点を注意深く観察すべきです。

同様に、同じ思想であっても、偉大な著者と凡人とでは感動の仕方がまったく異なるという点を考慮することが出来ます。なぜなら、キケロの言語をまとった思想と平凡な著者のそれとは、理解するときには大きな違いがあるからです。ちょうどそれは、ある物をロウソクの光で見るときと、太陽の光で見るときの違いと同じことなのです。

私が今述べている「好み」を身につけるルールを定めるのは非常に困難です。この能力はある程度生まれながらにして備わっているものであり、往々にして他の資質では申し分ない人でも、この能力がまったく欠けている場合がよくあります。現代の最も著名な数学者³⁾が、私に向って、ウェルギリウスを読むときの最大の楽しみは地図を見ながらアイネイアスの航海を検証するときだと言ったことがあります。現代の歴史編集者の多くが、ありのままの事実ほどウェルギリウスを喜ばないのは確かです。

ところで、この能力はある程度生まれながらに備わっていることに違いありませんが、これを育み、高める方法はいくつかあります。この方法がなければ、所有してる人にとってもこの能力は極めて不確かなものとなりほとんど役に立たないでしょう。この目的を達成する最も自然な方法は、最も洗練された著者の作品に親しむことです。優れた著述に興味のある人は、読むたびに、偉大な著者の見事な筆致に新たな美点を見つけたり、より強烈な印象を受けたりします。おまけに、自分もその著者と同じ喋り方や考え方をするようになります。

洗練された人々と付き合うことが生来の「好み」を向上させるもう一つの方法です。何事につけその全体像やさまざまな観点から見て行くことが出来る人はほとんどいません。誰もが、著者について漠然とした意見を持ちますが、自分自身の思考法に合った考え方をするものです。そのため、他者と付き合うことによって、気づいていなかった手掛かりが

3) この数学者はおそらくニュートンのことだと考えられている。

手に入り、自分自身の考えだけでなく、他人の考えをも享受できます。このことが、著述に対して卓越した才能を持っている人が単独で出現するのはまれで、一定の時期に一斉かつ一団となって出現する最大の理由なのです。ローマではアウグストゥスの治世、ギリシアではほぼソクラテスの時代がそうだったのです。コルネイユ、ラシーヌ、モリエール、ボワロー、ラ＝フォンテーヌ、ブリュイエール、あるいはダシエ派の人たちが、もし同時代の友人たちに恵まれなかったら、これほど素晴らしいものを書かなかったものと私は考えます。

同様に、著述に対する洗練された「好み」を身につけようとする人は、古今を問わず最高の批評家の作品に精通する必要があります。正直言って、ほとんど「好み」を所有していない人が言う機械的なルールのほかに、立派な著述のまさに真髄に入り込み、崇高な作品を読んだときに心に生起する喜びの源泉を明らかにしてくれるこの種の著者がいてくれればと願っています。したがって、作詩では、時と場所と行為の一致を、同種のほかの点と共に、徹底的に説明し理解することは絶対的に必要ですが、もっと重要なことがあります。それはロンギノス以外はほとんど考慮していませんが、空想力を高揚かつ驚かせ、読者に精神の偉大さを伝えることです。

イングランドにおける一般的な「好み」は、警句、機知のひねり、および、つじつまの合わない奇想となっています。これらは読者の精神の向上とか心を広くさせるという点では影響力を持ちませんし、古今を問わず偉大な著者からは慎重に避けられて来ました。私は、何回かの思索で、私たちが持っているこの中世的な「好み」を追放する努力をしました⁴⁾。町の人たちに、1週間連続で機知に関する小論を提供しました。その中で、私はいろいろな時代に称えられて来たこの誤りを指摘すると同時に、真の機知がどこにあるかを明らかにするよう努めました。その後私は、推奨する値打ちがほとんどない俗悪な作品を引き合いに出しながら、読者の心に影響を与える自然の素朴な考えにある大きな力の一例を提供しました。同様に、わが国いやおそらくは他のいかなる国でも最も偉大と言える詩人の作品を検討し、その神聖な作品を高く評価させる分別のある雄々しい美点を列挙しました⁵⁾。つぎの土曜日には、「想像力の喜び」について小論を提出したいと思います。このテーマについては詳細に検討することになるでしょうが、読者には、この小論を読んで貰えば、散文韻文を問わず優れた著者の文章に美点を与えるのは何かといったことのヒントになります。この種の試みはまったく初めてのことですが、「率直」⁶⁾に受けて取ってもらえるものと確信しています。

4) アディソンは以下の紙面を想定している。「機知」については第58号-第63号、「バラード」については第70号、第74号、第85号、「ミルトン」については第267号以下。

5) ジョンソンはアディソンの *Campaign* へのコメントで繰り返しているのかもしれない。

6) この英語は Candour で第253号にも登場する。